



健康で豊かな国民生活を保健医療福祉情報システムが支えます

2022年度 業務報告会

部門システム委員会 活動報告

2023年2月20日
部門システム委員会
委員長 金子 正和

- 今年度の事業計画
- 部門システム委員会報告
 - ・教育事業対応（JAHIS事業・冊子）
 - ・部門システム類型化
- 専門委員会、WG報告
 - ・病棟業務支援システム専門委員会
 - ・物流システム専門委員会
- 来年度の事業計画

(1) 部門システムに係る課題抽出と解決、標準化の推進

- ①部門システムの連携を促進するための課題洗い出しと解決
- ②教育事業などを通じ部門システム関連の知識の普及活動

(2) 病棟看護業務の効率化、標準化及びその利用の推進

- ①看護情報のシステム間移行、施設間連携のための標準化
- ②病棟部門に関連したシステム連携の整理・標準化の模索

(3) 物流業務の効率化、標準化の推進

- ①医療用資材(医薬品・医療材料など)の院内物流のICT適用モデルの考察
- ②院内物流の実態調査・現場情報のヒヤリングなどを通じ新たな標準化課題の模索
- ③「HIS向け医療材料マスタの提供ガイド」の改定
- ④「医療材料EDI標準化ガイド」の策定検討

(4) リハビリ業務の効率化、標準化及びその利用の推進

- ①リハビリ計画書連携の標準化推進
- ②リハビリシステム業務の標準化推進

各部門システムと電子カルテシステムとの連携を中心に、データやモノの連携・流れをまとめ教育事業の教材に反映し、JAHIS会員および外部受講者に情報提供した。



健康で豊かな国民生活を確立する医療情報システムが実をします

VIII. 部門システム

部門システムとは？ 代表的な部門システムの紹介

JAHIS 医療システム部会
部門システム委員会

© JAHIS 2017

1

JAHIS 輸血部門システム 概要



© JAHIS 2017

15

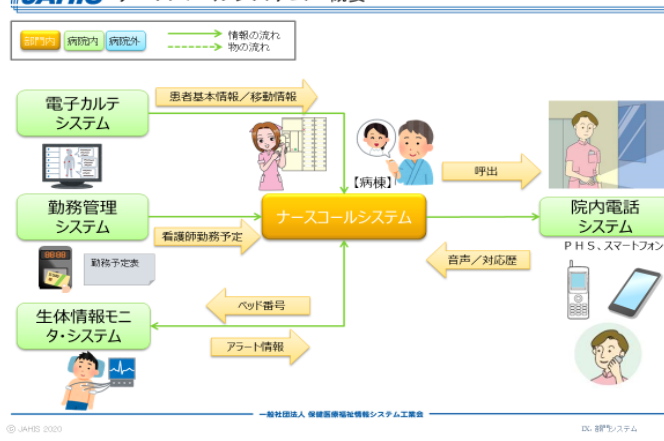
JAHIS 一般ITと医療ITの発展推移



© JAHIS 2020

4

JAHIS ナースコールシステム 概要



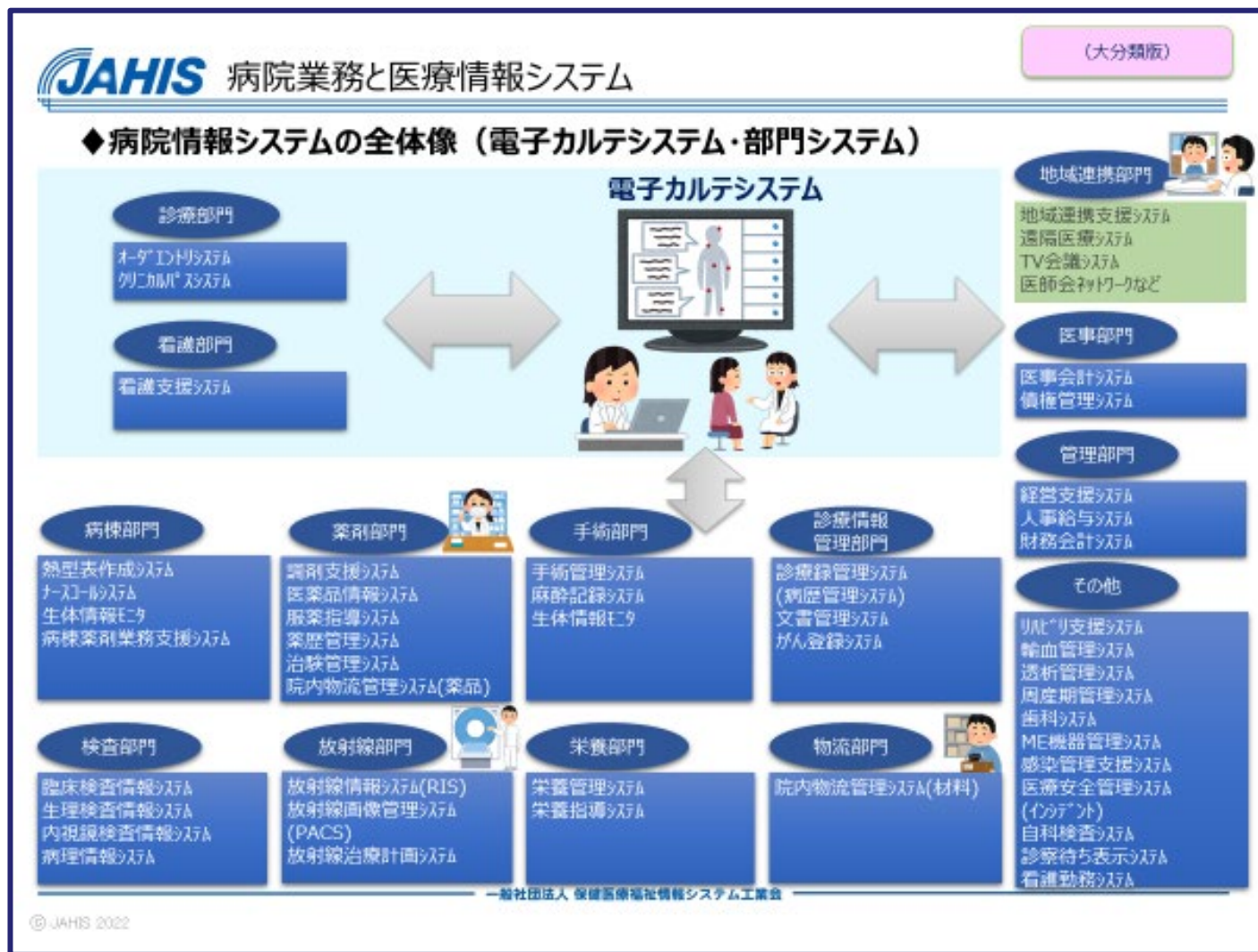
© JAHIS 2020

11

一言に部門システムといっても多種多様なものがあり、対象とする範囲があいまいであるため、部門システムについて類型化作業を実施してきたが、今年度内容を確定し資料化した。

部門システム名称一覧								
区分 (利用される 部門/診療科/業務など)	No.	システム名称 (一般名称)	概要	データ交換対象システム	連携 方向	交換データ種別	発生イベント	イベント頻度
基幹共通システム	—	電子カルテシステム						
	—	(院内電話システム)	音声によるコミュニケーションツール。固定端末のほか、構内用 PHSやスマートフォンなどのモバイル端末で、施設内の内線や外線通話が行える。	ナースコールシステム	I	呼出種別、部屋・ベッド番号、患者氏名、音声	呼出発生	随時
薬剤部門	薬剤	調剤支援システム	処方監査・相互作用チェック	電子カルテシステム	I	患者ID・患者プロフィール	オーダー発行	随時
				電子カルテシステム	I	処方データ	オーダー発行	随時
				医薬品情報システム	I	処方データ	オーダー発行	随時
				調剤機器	I	処方データ	オーダー発行	随時
				調剤機器	O	調剤処理データ	オーダー発行	随時
		医薬品情報システム	薬品に関する情報管理 (D/B)	調剤支援システム	I	患者ID・患者プロフィール	バッチ	随時
				調剤支援システム	I	調剤 & 過去調剤データ	バッチ	随時
		服薬指導支援システム	薬剤師が患者さんに薬の正しい使い方や効能などについて情報	調剤支援システム	I	患者ID・患者プロフィール	バッチ	随時
				調剤支援システム	I	調剤 & 過去調剤データ	バッチ	随時
				医薬品情報システム	I	持参薬入力	バッチ	随時
				医薬品情報システム	O	服薬指導情報	バッチ	随時
				医事会計システム	I	患者ID・患者プロフィール	バッチ	随時
				医事会計システム	I	調剤データ	バッチ	随時
				医事会計システム	I	指導情報	バッチ	随時
		薬歴管理システム	電子的に薬剤服用歴、指導歴を管理する。	電子カルテシステム	I	患者ID・患者プロフィール	バッチ	随時
				電子カルテシステム	I	調剤データ	バッチ	随時
検査部門	臨床	治験管理システム	IRB文書の作成、被験者の選定・来院・実施・終了を管理する。	電子カルテシステム	I	指導情報	バッチ	随時
				電子カルテシステム	I	患者ID・患者プロフィール	バッチ	随時
		院内物流管理システム (薬剤)	医薬品の購入・補充・コスト管理などを行う。	電子カルテシステム	I	処方データ	バッチ	随時
				電子カルテシステムor調剤支援システム	I	処方指示データ	オーダー発行時	随時
		臨床検査情報システム	中央検査部門等の院内検体検査を集中対応する部署に導入する検体検査依頼受付、検査結果保持、提供、関連機能を持つシステム	電子カルテシステム	I	臨床検査依頼情報	オーダー発行・患者受付時	随時
				電子カルテシステム	O	臨床検査受付情報 (検体到着情報)	検体到着時	随時
		臨床検査情報システム		電子カルテシステム	O	臨床検査結果情報	検査結果確定保存後	随時

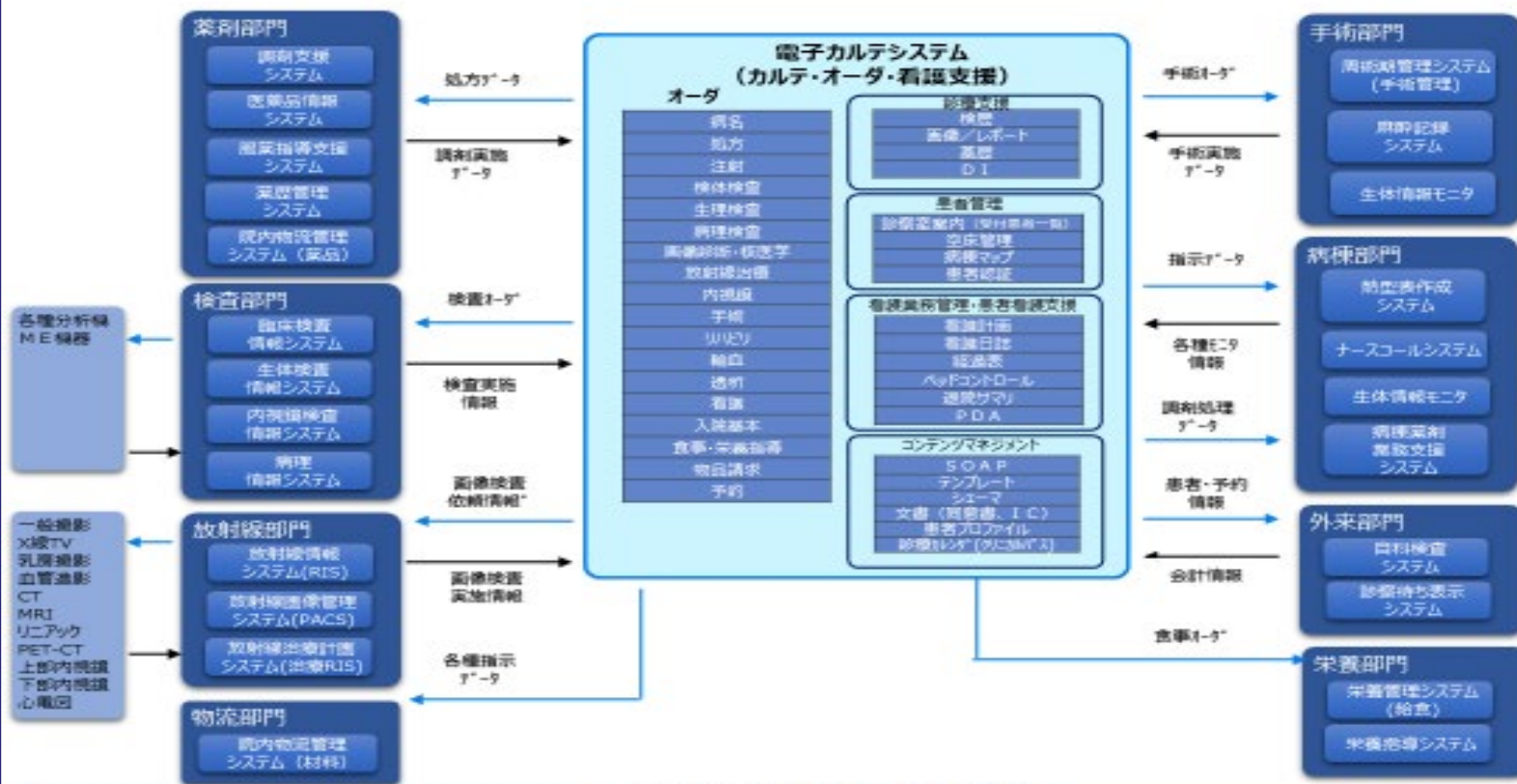
部門システムの類型化と合わせてシステム連携図の検討し資料化した。



部門システムの類型化と合わせてシステム連携図の検討し資料化した。

(資料版 1 / 2)

JAHIS 電子カルテシステムの対象範囲（部門システムとの連携）



一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会

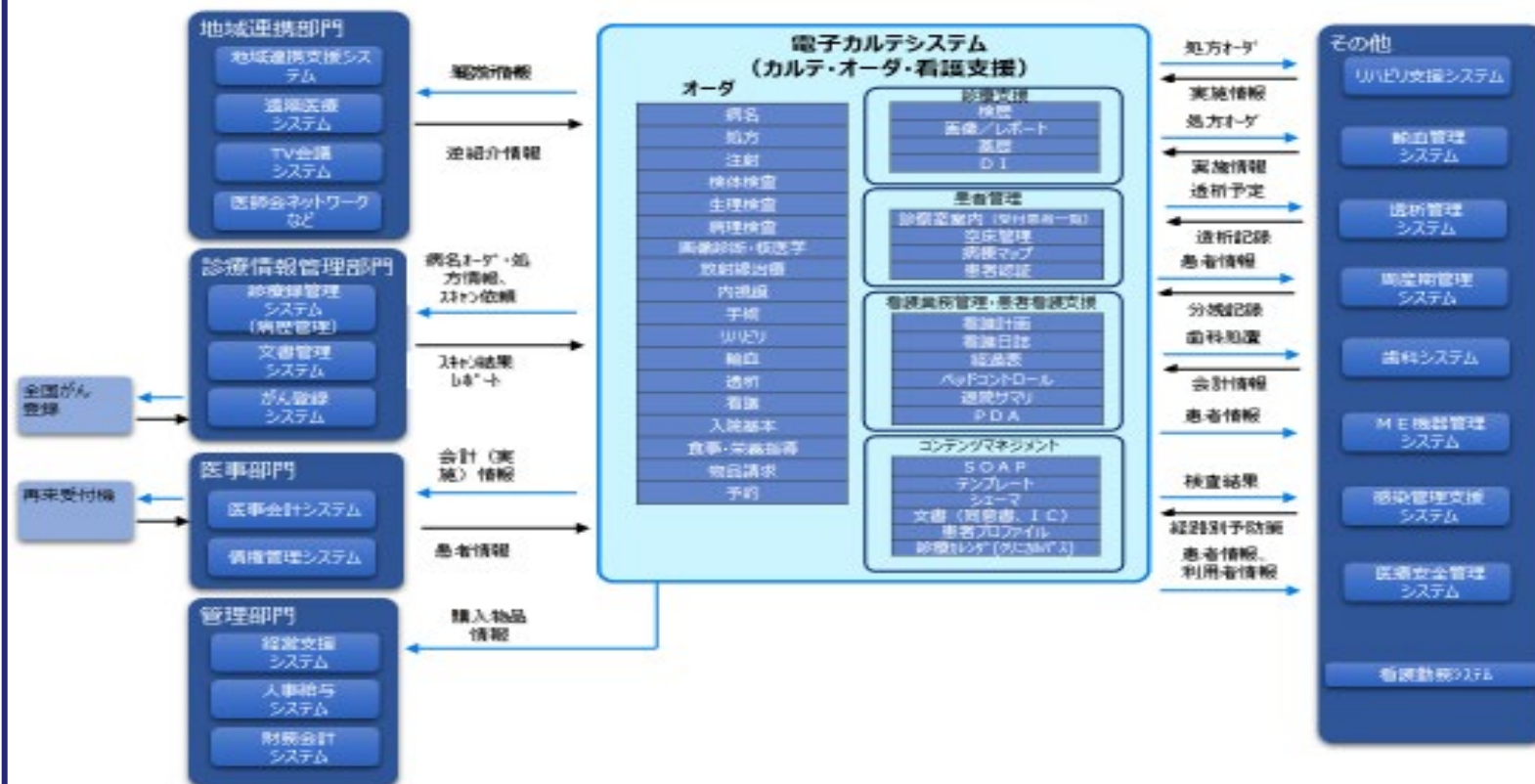
© JAHIS 2022

部門システムの類型化と合わせてシステム連携図の検討し資料化した。

(詳細版 2 / 2)



電子カルテシステムの対象範囲（部門システムとの連携）



一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会

© JAHIS 2022

テーマ：病棟看護業務の効率化、標準化及びその利用の推進

① JAHIS看護データセット適用ガイドの強化

看護領域の相互運用性向上を目的に、ターゲットを“患者状態”として検討を進め、特性を定義することができた。2023年度はJAHIS技術文書の改訂を計画する。

② MEDIS-DC看護実践用語標準マスタの改善に関する検討と提言

JAHISから提示した“マスタ実装における課題”検討のために、MEDIS内にタスクフォースが設置された。委員会から2名が参画し、検討・提言を行い、課題解決を進めている。

③ 記録の自動化に関する検討

テーマを“記録の自動化”と決定し、活動を進めている。病棟に存在しているシステムや機器・デバイス類の洗い出しから開始し、検討候補として14品目を決定した。今後は、それらが保持している情報の精査から着手し、具体的な検討ターゲットを絞り込んでいく。

④ 各種団体との協力による活動の推進

- 日本医療情報学会看護部会(JAMI-NI)への委員派遣（幹事として派遣）
- 日本看護協会との意見交換会

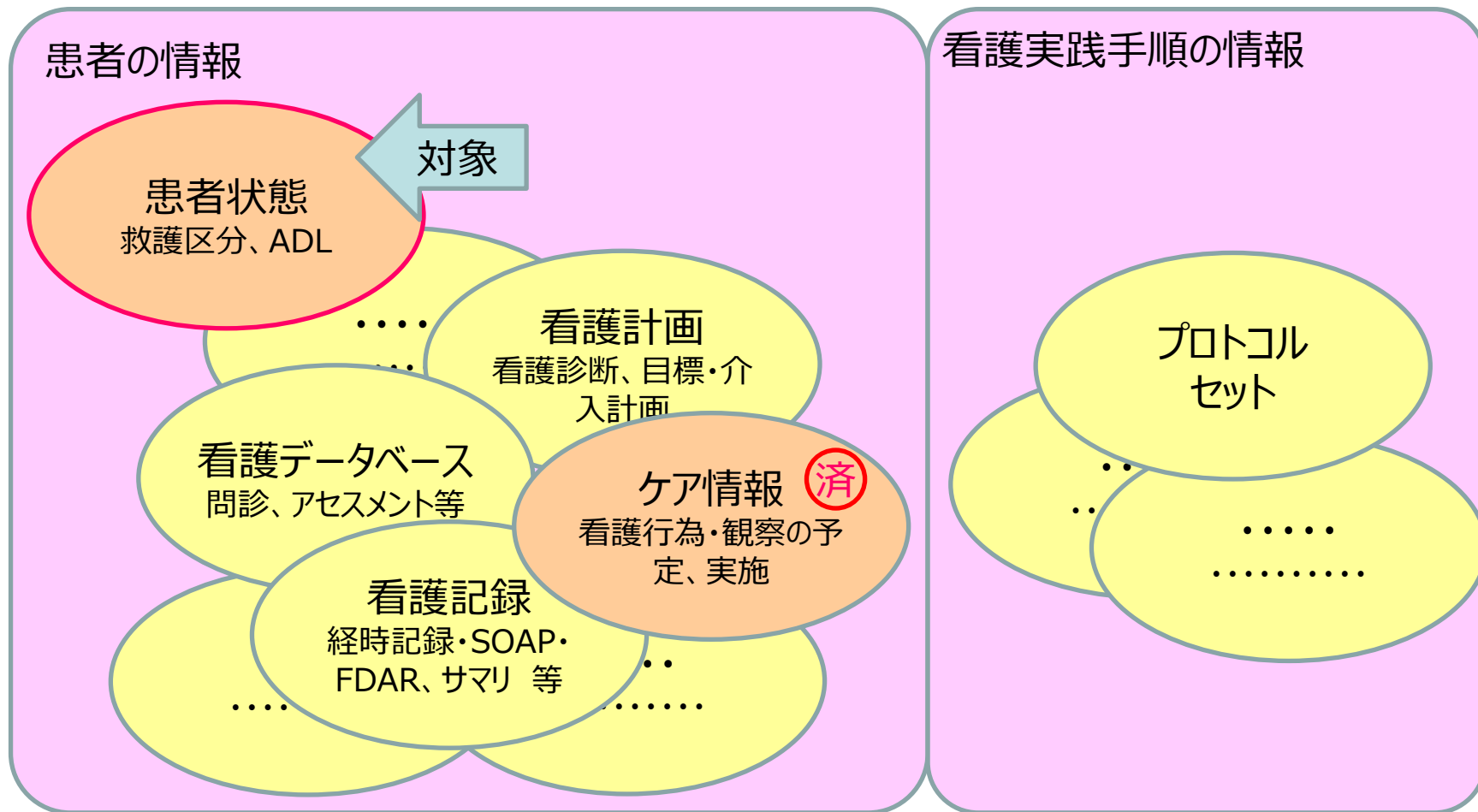
JAHIS看護データセット適用ガイドの強化

看護情報WG

- 2022年4月 今年度活動開始
- 2022年5月 ターゲットを「患者状態」に決定
- 2022年6月 特性の洗い出しを開始
 - 特性を示すキーワードを選定
⇒ 影響、期間、判断・基準、状態、変化、連携、管理、記録、対象患者
 - 臨床上“患者状態”を表す語群は定義されていないが、臨床現場には概念として存在している
⇒ 9社の経験上で一義的に範囲を特定
- 2023年1月 データ定義に着手、2023年度に技術文書の改訂を目指す

対象範囲を「患者状態」に設定

看護情報の種類



MEDIS-DCマスタの改善に関する検討と提言

- 2022年8月 MEDIS内にタスクフォース発足
看護実践用語標準マスターのデータ利用に関するタスクフォース
- 2022年9月 タスクフォースに参加、改善案の検討開始
 - バージョンアップ時の更新履歴について
 - 血圧値の表現タイプの扱いについて
 - 観察結果値テーブルのコード体系について
- 2022年12月 マスタリリース(Ver.3.7)
検討内容を反映し、変更履歴データが公開された
(Ver.3.4～3.7 の履歴公開)
- 2023年2月 改善案の検討継続
 - 付随情報の扱い
 - 単位が異なる項目の扱い (m/cm、kg/g) など

記録の自動化に関する検討

専門委員会

- 2022年6月 テーマ選定
「記録の自動化」
- 2022年7月 医療システム部会内でアンケートを実施
「病棟に存在するシステム・機器・デバイスの洗い出し」が目的
- 2022年9月 アンケート結果集計・分類
- 2022年12月 対象品の選定（56品目⇒14品目）
- 2023年1月 対象品の最新情報と自動化候補の確認を
目的とした勉強会を計画
- 2023年2月 勉強会を開始、自動化対象とすべきデータの
検討に着手する

今後の活動について

1. 病棟業務支援システム専門委員会

- 記録の自動化が有効であるシステム・機器・デバイスの選定
- 記録の自動化が有効であるユースケースの定義

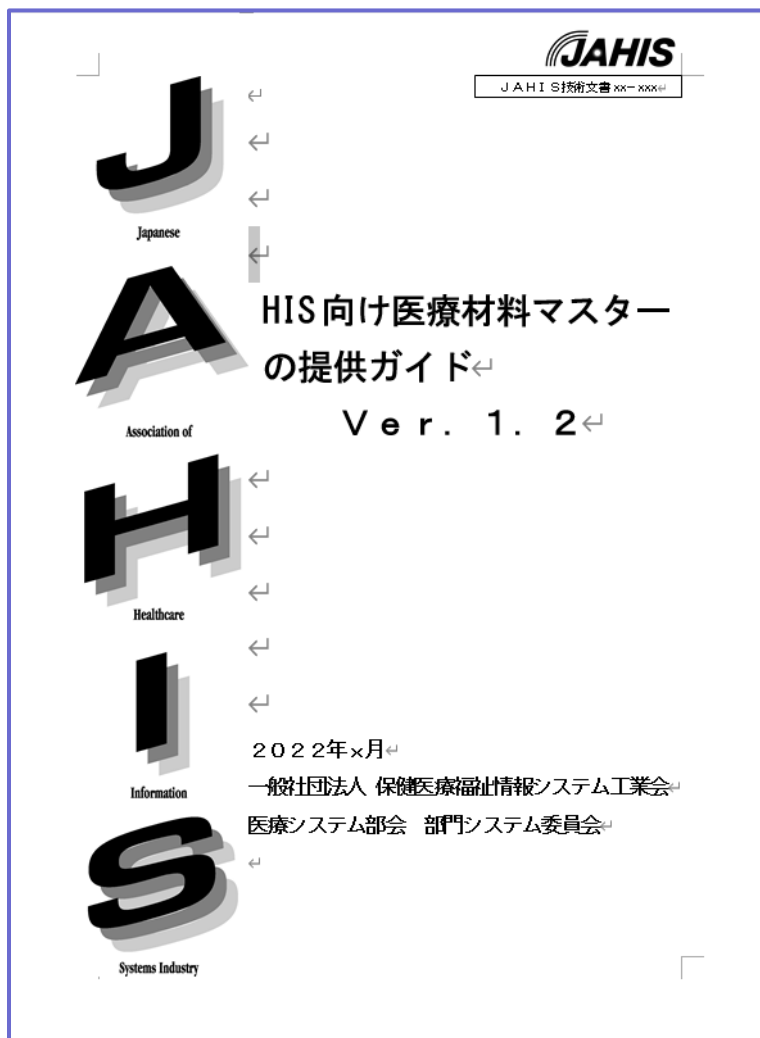
2. 看護情報WG

- 看護データセット適用ガイドの普及推進、実装検証
- “患者状態”をターゲットとした、同ガイドのブラッシュアップ

テーマ：物流業務の効率化、標準化及びその利用の推進

- 1)「HIS向け医療材料マスターの提供ガイド」の改版
 - ・GS1 Japanオブザーバ指摘を反映した用語の最新化・見直し
 - ・ガイドの普及・利用促進に向けたメリット・デメリットの追記については来年度も継続して検討
- 2)「HIS向け医療材料EDI標準ガイド(仮)」の策定
 - ・医療材料の病院～卸間の電子取引の標準化資料作成中
- 3)院内物流の新ICT適用モデル考察
 - ・専門委員・オブザーバ・業界団体からの情報収集を行い、RFIDなどの標準化・ICTモデルについて検討を実施

GS1 Japan様からの用語の指摘等について最新化・見直しを盛り込み改版作成中。



- ・「JANコード→GTIN(JANコードなど)」といった誤った用語の使い方を訂正。
- ・薬品・医療材料の梱包(外箱・内箱・個装)のGTINコード体系についても、最新の教材資料で修正。

2023年度における物流システム専門委員会活動の狙い

院内物流システム			電子カルテ・部門システム
対象	マスタ管理業務	発注・納品業務	診療業務（実施など）
医薬品	標準コード（GTIN(JANなど））コードの活用が進んでいる。	EDI発注の活用がかなり進んでいる。EDI納品データの安全確認情報（ロット・有効期限など）も院内で活用が始まっている。	標準コード（GTIN(JANなど））を用いた実施入力・安全確認の活用は、一部の医療機関の病棟・薬剤部など部分的に活用が始まっている。 ☆今後のターゲット
医療材料	標準コード（GS1・JAN）の活用・応用範囲が一部で限定的。（例：物流センターのみ） ★「医療材料マスタ提供ガイド」の改版により推進検討	EDI発注の活用は殆ど行われていない。 ※標準コード普及が前提 ★「医療材料EDI標準ガイド」の新規策定により推進	標準コード（GTIN(JANなど））を用いた実施入力・安全確認の活用は進んでいない。 ☆今後のターゲット

(1) 部門システムに係る課題の洗い出しと解決、標準化の推進

- ・部門システムの連携を促進するための課題洗い出しと解決
- ・教育事業などを通じ部門システム関連の知識の普及活動

(2) 病棟看護業務の効率化、標準化及びその利用の推進

- ・看護情報のシステム間移行、施設間連携のための標準化
- ・病棟部門に関連したシステム連携の整理・標準化の模索
- ・各種団体との協力による活動の推進

(3) 物流業務の効率化、標準化及の推進

- ・「HIS向け医療材料マスタの提供ガイド」の改定・普及促進
- ・「医療材料EDI標準化ガイド(仮称)」の策定
- ・物流システムの先進的な内容の研究

(4) リハビリ管理業務の効率化、標準化の推進、介護連携の強化

- ・リハビリ計画書連携の標準化推進
- ・リハビリシステム業務の標準化推進



健康で豊かな国民生活を保健医療福祉情報システムが支えます

ご清聴ありがとうございました